

## 臨時総会雑感

瀬瀬和義（愛知県弁護士会）

9月に入っても相変わらず暑い日が続きます。

私は、岐阜県多治見市に生まれ育ち、今でもここに住んで毎日名古屋まで通勤しています。ご存じのとおり、「多治見と言えば日本一暑い、日本一暑いと言えば多治見」でお馴染みかと思えます。ところが最近では日本一の地位が脅かされていますので、多治見市民は一丸となって日本一奪還を目指しています（これかなりホントです。）。

本年3月11日の臨時総会について招集請求に関わった者のひとりとして若干感想を述べないといけないかなと思います。

結果は一言で言えば惨敗でした。甘いと笑われるかもしれませんが、これほど手ひどくやられるとは正直思っていませんでしたので、少しがっかりもし、少し落ち込みもしました。が、直ぐに立ち直りました。敗因を一言で言うならば、私たち招集請求側の足腰の弱さではないかと思っています。一人一人に面と向かって話をすれば、多くの方が委任状をくれましたし、必ずや多くの賛同を得られたはずで。東京、大阪などの大派閥の「締め付け」でかような結果になったと言う人もいますが、私はそうは思いません。私も昨年、愛知の大派閥の幹事長という名目上のトップでしたし、長年この派閥に身を置いた経験からかように思うのです。また、弁護士激増の昨今、派閥の締め付けなどはありませんし、あり得ません。利権の配分だとかポストのバラマキなどの機能もありはしないからです。だからと言って派閥が機能しなかったかと言えば、それも違うでしょう。派閥出身の副会長が各派閥内の会員（特に若手会員）に直接声を掛け、執行部案への票集めをしたことは事実です。では何故多くの会員が執行部に委任状を出したかと言えば、各派閥出身の副会長がこまめに動いて説得したからでしょう。副会長クラスの人たちは、派閥においても中心的な役割を担い、若手からも信望のある人も多くいて、若手との交流も濃密なもの（決して利害得失がからむものではありません）があるように思います。その関係は金や利権やポストなどというようなものではなく、ある種の信頼関係が成り立っていると見るべきだと思います。この副会長が言うなら「まっいいか」というように気楽に委任状を出したのではないのでしょうか。ということで、私たちもこの暑さに負けることなく足腰を鍛えましょう。

（2016年9月5日記）